

平成 24 年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

畠山祥史
東北大学大学院教育学研究科

島軒藍
東北大学教育学部

本報告は、2003（平成 15）年度より活動が続いている「東北大学学校ボランティア」事業（以下、学校ボランティア）の 2012（平成 24）年度の取り組みを報告するものである。

1. 「学校ボランティア」概要

（1）実施体制

「学校ボランティア」は、東北大学大学院教育学研究科・教育ネットワークセンターの事業の 1 つとして、同センター委員である教育学研究科・熊谷龍一准教授を局長とした事務局を設置し運営を行っている。事務局員は学生であり、現在の局員数は 2 名である（教育学部・教育学研究科各 1 名）。また、本年度の運営にあたっては、事務局の前体制からの引き継ぎ期間として、全学教育学習支援事業を進める SLA サポート室（室員 2 名）に川内北キャンパスにおける窓口業務等でサポートを受ける形で活動を行った。

現在の「学校ボランティア」の活動は、仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）による「学生サポートスタッフ事業」より依頼を受けた活動に対し、学生を派遣する形をとっている。仙台市教委経由の依頼活動の場合、活動学生は仙台市教委の学生サポートスタッフ事業のスタッフとして登録され、ボランティア保険や交通費の補助を受けることができる他、仙台市教委より「感謝状」が授与されることになっている。

（2）活動内容

「学校ボランティア」の活動先は、仙台市教委の学生サポートスタッフ事業に対し、ボランティア派遣を依頼した小・中学校が主である。活動内容は、学習指導補助が大半であるが、次いで、配慮を要する児童・生徒の指導補助や、特別活動の補助、放課後や休み時間の話し相手としての活動など、学校内の活動全般が対象となっている。

（3）活動学生の募集（派遣）方法

事務局では、東北大学の全学生を対象として、主に①SLA サポート室前掲示板、②メーリングリストの 2 つの方法でボランティア活動学生の募集を行っている。本年度のメーリ

ングリスト登録学生数は表1の通りである。

これらを通じて、仙台市教委から受けた活動依頼情報を周知し、活動に興味がある学生がいた場合、その学生を派遣するという流れが基本である。

表1. 学校ボランティアメーリングリスト登録学生学部構成表

学部	人数(人)	大学院	人数(人)
文学部	6	文学研究科	1
教育学部	10	教育学研究科	2
経済学部	5	工学研究科	1
工学部	1	理学研究科	4
理学部	5	農学研究科	1
農学部	6	医学研究科	1
学部合計	33	その他	2
		大学院合計	12

(2013年2月現在)

2. 平成24年度「学校ボランティア」活動状況

(1) 年間の動き

本年度の「学校ボランティア」の一年間の動きは、表2の通りであった。年間を通じての大きな行事は、毎年年度末に開催している活動報告会・感謝状授与式である。これについての詳細は(4)にて後述する。活動依頼については、小学校53件・中学校17件で合計70件の依頼があった(同一学校の場合でも活動内容が異なる場合は別件扱い)。年間を通じた動きとして、小中学校の活動依頼はセメスターの開始時期にやはり多く、特に8月に集中している。これは、9月の新学期に向けた活動依頼による増加である。このことを踏まえると、現在は年度開始時期に活動学生の募集活動を行っているが、後期セメスター開始時に広報活動に力を入れることで、活動学生の増加を見込めるのではないかと考えられる。

表2. 平成24年度の「学校ボランティア」の動き

月	行事等	依頼		活動開始 学生
		小	中	
4	授業内告知・ポスター掲示による活動学生募集	11	3	
5	—	1	2	4人
6	市教委による対事務局向け学生サポートスタッフ研修会(6/1)	7	2	
7	—	4	3	7人
8	—	20	6	
9	—	5	0	
10	—	2	0	

11	—	1	1	2 人
12	—	0	0	1 人
1	—	1	0	2 人
2	活動報告会・感謝状授与式 (2/7 14:00~15:00)	1	0	1 人
3	—	0	0	

(2) 活動学校状況

仙台市教委からの 70 件の活動依頼のうち、本年度は、13 件の活動にボランティア活動学生を派遣した（達成率 19%、昨年度比+1%）。活動学生の人数は実働 20 名、のべ 23 人である。

派遣先の学校の内訳は、小学校 6 校、中学校 5 校であった。派遣先の学校について、小学校と中学校がほぼ同数となったが、活動学生の人数としては小学校 7 人、中学校 16 人で中学校への派遣が多い傾向が見られた。活動学生の派遣先学校と人数の詳細は表 3 の通りである。

表 3. 活動学校一覧と活動者数

活動学校	人数 (のべ)
片平小学校	1
榴岡小学校	2
八幡小学校	1
向山小学校	1
八木山小学校	1
六郷小学校	1
桜丘中学校	2
将監中学校	2
第二中学校	1
富沢中学校	7
八乙女中学校	4
合計	23

(3) 活動者状況

①活動者数

活動学生の属性について、その内訳を表 4、表 5 に示した。特徴として、①教育学部・研究科生と理学部・研究科生および工学部・研究科生の活動数が同程度であり、文系学部の学生よりも理系学部の学生のほうが多いこと、②学年は、履修授業の多い 1・2 年生よりも、4 年生以上の学生が中心となっていること、などが挙げられる。その他、教職課程履修者が中心であることも活動学生の特徴である。これらの傾向は、昨年度までと同様の傾向であるが、①については、本年度より顕著になった傾向である。学校現場でのボランティア活動に興味を持つ学生は文理を問わないということから、本活動を全学的な活動とすることの意義を感じることができる。

表 4. 活動学生人数・所属別

学部 (大学院含む)	人数 (実数)
文学部	2
教育学部	6
工学部	4
理学部	6
農学部	2
合計	20

表 5. 活動学生人数・学年別

学年	人数 (実数)
学部 1 年	1
学部 2 年	1
学部 3 年	1
学部 4 年	7
大学院	10
合計	20

活動者の主な活動内容は学習指導補助活動であるが、その中でも、①長期にわたる授業内での指導補助、②放課後や休日に定期的実施される補習会での学習補助、③長期休み期間中に開催される勉強会での補助活動など、大別すると3タイプの活動が中心となっている。また、学習指導補助活動とも重複する部分はあるものの、配慮を要する児童への支援活動も比較的多い傾向にある。

③活動学生によるボランティア活動報告

ボランティア活動学生は、活動終了後に事務局へ「活動報告書」を提出する。ここでは、この報告書に基づき、学生からの声を紹介したい。

以下、活動内容、意見・感想部分の文章は原文の通りである。なお、Wさんの一部の箇条書き部分は、報告書ではなく、後述する活動報告会での発表内容からの抜粋である。

(※意見・感想…①感想、②困った点、③事務局への要望)

Oさん (理学部・1年)
<p>【活動時期】2012年6月～2012年10月</p> <p>【活動内容】授業補助という形で教室の後ろに立って生徒たちに良い緊張感を与えた。また生徒たちとコミュニケーションをとった。</p> <p>【意見・感想】①活動できた回数が少なく残念ではあるが、教える側に立って学校を眺めることができ、将来教職も視野にあるため非常に良い経験だったと思う。先生方の苦勞がよくわかった。②寝ている生徒にどこまで声をかけていいのかわからなかった。後期から全く予定が合わず、どうすればよいか困った。③難しいかもしれないが、同じ学校にずっとというものだけでなく、毎回違う場所・内容で参加できればもっと予定をあわせやすかったりやる気が出てよいと思う。</p> <p>【事務局より補足】後期から予定が合わず、“活動終了”が明確でないまま終わってしまったことが心残りとのことであった。“終わり方”は、活動学生にとっても学校にとっても大事なものであるため、事務局では終了時期を確認するなどのフォローを検討したい。</p>

Kさん (理学研究科・修士課程1年)
<p>【活動時期】2012年7月23日～2012年7月27日</p> <p>【活動内容】夏休みの自主学習の補助</p> <p>【意見・感想】①いかに、わかりやすく理解してもらうことが難しいことか肌で感じた。その反面、理解してくれたときの達成感や、生徒の様子など、やりがいを感じる事ができ、とても有意義であった。②2日目には、顔見知りの生徒のうちに騒ぎ出したり、ふざける様子が見られ、困った。③—</p>

【事務局より補足】短期の活動ではあったが、感想からは、得られたものは大きかった様子が伺える。今後、こうした声をボランティアを検討中の学生にも伝えることで、気軽に短期の活動からボランティア活動に参加してもらえるよう働きかけていきたい。

Wさん（農学部研究科・修士課程 1 年）

【活動時期】2012 年 7 月 23 日～2012 年 7 月 25 日

【活動内容】小学 4・5 年生の自習監督となり、プリントの採点をした。

【意見・感想】①初めて小学校で活動したが、中学生・高校生との違いを感じられ、良い経験となった。②参加者が 1 人で手が足りなかった。③今後もよろしくお願いします。

・小学校での活動は初めて ・解答がなく、採点に時間がかかってしまった ・忙しくて児童と交流する機会が少なかった ・1 人での活動は少し不安

Wさん（農学部研究科・修士課程 1 年）

【活動時期】2012 年 7 月～2012 年 9 月

【活動内容】保健室での書類作成の補助（コンピュータ操作）

【意見・感想】・自分の能力を生かすことができた ・1 度生徒に数学を教える機会があった ・教室外での先生方の仕事を知ることができた ・生徒と交流する機会が少なかった ・到着してすぐ中止になることもあった

Wさん（農学部研究科・修士課程 1 年）

【活動時期】2012 年 9 月～2013 年 2 月（月 2・3 回、土曜日午前）

【活動内容】生徒の自習監督（課題を持参し、机間巡視）

【意見・感想】・毎回生徒に目標や感想を書かせ、活動の参考にする ・スタッフ（PTA）が参加学生と学校との仲介役 ・生徒の参加希望数を把握し、活動者の不足を解消 ・生徒と交流する機会が多い ・他大学の活動者とも交流する機会がある

Wさん（農学部研究科・修士課程 1 年）

【活動時期】2012 年 12 月 25 日～2012 年 12 月 27 日

【活動内容】生徒の自習監督。（生徒は冬休みの課題:主要 5 科目のうちでその時間内に学習する教科を事前に決め、理系クラス・文系クラスに分かれた）

【意見・感想】①学生スタッフは 3 日とも別の人が参加していたため、人数不足、生徒との信頼関係を築くことが難しいようであった

・生徒と交流する機会が多かった ・生徒の苦手分野がわかる ・学習内容のクラス分けは活動者に都合が良い ・他の参加者とも交流があった

Yさん（工学部・2年）
<p>【活動時期】 2012年7月</p> <p>【活動内容】 数学学習会の指導補助</p> <p>【意見・感想】 ①大変快適に活動させていただきました。毎週土曜日に数学を中心とした勉強会を開いているという環境がすごく良いと思いました。また機会がありましたら参加させていただきたいです。②— ③—</p>
<p>【事務局より補足】 Yさんは、昨年度も活動に参加してくれた学生である。理系学生のため、文系科目の活動には苦手意識を持っていたようであるが、今回は数学学習会ということで、活動内容としては不安なく活動に臨めたようだ。感想にあるように、各学校の文化を知れることも「学校ボランティア」の面白いところであると再認識した。</p>

この他、活動報告書は得られていないが、「美術の授業補助の活動をしたい」「英語の活動がしたい」といった希望で活動を開始した学生がいた。美術は珍しい事例であるが、英語の活動は人気が高い。このような「特定の教科の学習支援がしたい」というニーズがある場合、学校側のニーズとマッチするように紹介・斡旋することが必要になるため、事務局でも工夫をしていきたい点である。

（4）平成24年度「学校ボランティア」活動報告会（感謝状授与式）

①活動報告会概要

「学校ボランティア」では、毎年、年度末に、活動報告会（感謝状授与式）を開催し、活動学生同士の交流を深めたり、事務局・仙台市教委と情報交換をしたりする場を設けている。今年も、下記の通り、活動報告会を開催した。

<p>【開催日時】 2013年2月7日 14:00～15:00</p> <p>【参加者】 学生3名（内、活動者2名）、仙台市教委2名、事務局関係者7名 計12名</p> <p>【場所】 東北大学川内南キャンパス・文科系総合研究棟201教室</p> <p>【次第】 ①事務局報告 ②活動学生代表報告 ③懇談会 ④感謝状授与（仙台市教委より） ⑤事務局長挨拶</p>

活動報告会は、学生、仙台市教委、事務局の三者が集まる場である。学生については、本年度の活動学生を中心に参加者を募る他に、まだ活動をしていない学生にも活動の様子を知って

もらうため、メーリス登録者に参加を呼び掛けている。近年、参加者数が少ないことが課題ではあるが、少人数の良さを活かした率直な意見交換・情報共有ができることを目的とするとともに、来年度の活動充実のためのヒントを得る会となるよう企画・実施をしている。

②活動報告会の様子

本年度の活動報告会の特徴は、活動学生から代表として活動報告をしてもらったことである。当学生は、本年度中に 4 校の学校で活動していたこともあり、各学校の様子や活動内容について、多角的で豊富な体験談を発表してくれた。

当学生の発表では、「学校ボランティア」の活動上の課題として、次の 4 点が挙げられた。
①活動者が少なく人手が足りない、②学校内の担当以外の先生が活動を把握していないことがある、③学校で「来客用プレート」を掲げていると、児童からボランティア活動者と認識してもらえないことがある、④事前打ち合わせがない場合、1 人での活動は不安がある。一方で、「学校ボランティア」の活動の意義、特に、当学生のように複数校で活動をする場合の意義について、①学校の違いを体感できる、②生徒とのコミュニケーション能力を磨く機会になる、③色々な環境に入る経験・挑戦になる、ということで、教育実習に臨む学生や教員志望の学生に特にお薦めであると締めくくってくれた。

この発表内容は、活動学生の実体験に基づく声であり、活動学生・仙台市教委・事務局三者にとって、具体的な活動の状況を知れる貴重な機会となった。

③参加者の感想

参加してくれた学生からの感想を、以下に掲載する。

○普段、自分の報告を聞いて頂きつつ他の方の様子を伺っていますが（※）、全体の活動を聞く機会を年 1 でなく複数回設定して頂けるとうれしいです。

※補足：月に一度、活動報告に来てくれている学生。その際に、事務局から他の活動者の話を伺っているが、ということ。

○ボランティアしている学生の人数が思っていたよりも少なくて驚きました。周りの人にも周知してみます。市教委さんのお話しも聞けて参考になりました。参加できる回数は少ないですが、残りの活動もがんばりたいと思います。

○会の最後にも少しお話ししましたが、××市でも（※）このような活発な学校ボランティアがあることを強く願います。長期間にわたって 1 つの学校に関わることができることは、非常にうらやましく思います。本日は、ありがとうございます。

※補足：仙台市外在住の学生のため

感想にもあるように、懇談会では、普段はなかなか伺うことのできない、仙台市教委の先生方の「学校ボランティア」活動に対する思いを聞くことができるなど、事務局としても改めて学ぶことができた活動報告会となった。今後は、感想にもあるように、会の実施時期や回数を検討するなど、より多くの学生に活動報告会に参加してもらえるよう、工夫をしていきたい。

3. 平成24年度「事務局」活動状況と課題

(1) 活動状況

事務局の基本業務は、①広報・活動者募集活動、②活動学生向け活動（各種手続き含む）、③その他、である。

①については、本年度も引き続き、教職課程の2授業において広報活動を行わせて頂いた他、ポスター掲示による広報を行った。加えて、依然修正すべき点は多いが、昨年度までの課題であったホームページの改修作業にも着手することができた。

②の活動学生向けの活動が、「事務局」としての中核業務である。学生からの活動希望を受け、学校側へボランティア内容の詳細確認をしたり、学生のニーズを踏まえて調整を行ったりする。活動が決まった学生には、仙台市教委からの研修をもとに、活動者向け説明会を実施し、活動学生の登録手続きを行う。活動が長期にわたる学生には、定期的なメール連絡やヒアリングを実施する。また、前述した活動報告会の実施も、活動学生の活動を充実させるための一活動である。

③その他としては、仙台市教委以外（つまり、仙台市内の小中学校以外）の他機関から依頼されるボランティア学生の派遣に関する対応や、「事務局」の体制改善に向けた活動がある。本年度は、前体制からの移行期間ということもあり、後者の活動も一定程度を占める事務局業務であった。

(2) 課題と来年度にむけて

①ボランティア活動学生に対して

本年度の活動を通して、活動学生が希望する活動や活動学校を選ぶ基準は様々であり、そのニーズをくみ取る作業や、ニーズに合う学校を探す工夫を重ねられればよりよい活動を生むことができると感じる。また、特別支援の生徒の補助活動を行っている活動学生からアドバイスを求められた事例もあり、こうした専門的な活動に対するフォローアップも充実させていきたい。

また、説明会を実施して以来会う機会がない活動学生も多く、メールでのやり取りでは状況把握に限界がある事例もあった。実際、学校との連絡が中途半端に終わり、曖昧な状態で活動を終了せざるをえなかった学生も見られ、こうした活動学生の困りごとを事務局側で把握し、サポートできるよう改善を図っていきたい。

加えて、事務局の役割の 1 つに活動学生同士の情報共有の場を設けることが挙げられる。これまで実施した活動報告会は、仙台市教委からの感謝状授与式を同時に行うことも目的としていたことから、年度末の開催が恒例となっていたが、前期終了時点や夏休み中などにもこうした会を設けることを検討したい。それによって、活動学生にとっては現在進行形の活動に情報を活かすことができ、事務局としても活動学生の現状把握や事務局のサポート体制見直しの機会になると考えられる。活動学生が各々の活動状況を報告し合い、新たな刺激や知識、情報を得られるような機会をより充実させていきたい。

② ボランティアを希望する学生に対して

本年度の活動者募集の取り組みは、例年通り、主に 1 年生を対象とした教職科目での呼びかけであった。教職科目履修者は、教育現場に一定程度興味を有していると考えられ、まずはそのような学生に「学校ボランティア」の存在を知ってもらうことには意義があると考えられる。しかし、活動学生の増加という目的からすると、学部生は履修授業が多くボランティアの都合がつかない場合も多いため、そのような学生の活動促進を目指す難しさは依然として残ったままである。今後、活動の輪を拡大していくためには、活動者の中心が高学年の学生、特に大学院生が中心であることを踏まえ、大学院生への周知活動も行っていくほうがより効果的であると考えられる。そのため、他キャンパスの講義棟にポスターの貼りだしを行うことを検討したい。

また本年度からホームページが改善され、インターネットでも学校ボランティアの概要や窓口に関する情報を提供できるようになった。しかし現在のホームページは逐一最新情報を更新するような形態をとっておらず、閲覧した東北大生に興味を持ってもらったり、結果として活動学生を増加させたりするような役目を担っているとはいえない。したがって、来年度以降は活動依頼のある学校の情報や活動学生の状況、および事務局の動きなどに関する情報を定期的に発信するようなホームページ運営をしていきたいと考えている。

③ 学内への周知改善等

本報告の冒頭、「学校ボランティア」の概要において、「学校ボランティア」は、仙台市教委から受けた依頼活動情報を周知し、活動に興味を持つ学生がいた場合、その学生を派遣するという流れが基本であると記した。しかし、本年度の活動に特徴的だったのは、「内諾有り」の形での活動学生が多かったという点である。「内諾有り」とは、学校と学生が直接やりとりをして、活動開始が決定していたり、すでに活動を始めていたりする事例のことである。本年度の活動者 20 名中 11 名がこの事例に該当した。これ自体に問題があるわけではないが、事務局で登録をしないまま活動を続けた場合、学生サポートスタッフとして登録されず、保険制度に加入しない状態での活動となってしまうため、学校側・学生側への周知が徹底されるよう仙台市教委とともに改善を図りたい。また、本事務局特有の問題としては、他大学と異なり、一学部の中

に事務局が設置されているため、学生にとって窓口の場所がわかりにくいという状況がある。実際、「内諾有り」の状態で窓口を訪れた学生は、いくつかの学内の窓口を巡った末に辿りついた事例が少なくなかった。これについては、事務局として、学内への周知やホームページの改修などにより、窓口情報がわかりやすくなるよう改善に努めたい。

謝辞

本報告作成にあたっては、東北大学 SLA サポート室・室員の足立佳菜さんと鈴木学さんに心のこもったご指導をいただいた。ここに記して、心より感謝申し上げます。